

未来創造志塾 5 期第 1 回 (3 月 20 日)

「荀子」人生で学ぶべきこと、リーダーシップとは？

未来創造志塾 建塾の志

目的

二十一世紀、新しい時代の大転換期を生き抜くための理念や経営の哲学を共に学び合う
経世済民の高い志を持ち、日本人としての使命を探究し、切磋琢磨し合い、未来に向けての価値を
創造し、共感の和を広げる。

誓い

一、大局観察

何事も高所、大局から、情勢判断する習慣を心掛けます。

一、使命探究

人間の持つ無限の可能性を信じ、自らの使命を探求し、価値の創造に努めます。

一、自己挑戦

常に智恵と向上心と勇気を忘れず、共に励ましあい、立派な日本人となることを目指します。

5期テーマ 東洋思想・哲学を学び、トップ 幹部に必須な人間学を身に付ける！

賢者は歴史に学び、愚者は体験に学ぶ、先賢に学んで自分を練る」

講義主題 一、東洋思想を学び、価値観を高め、人間力の向上を目指す。

二、経営の原理原則を学び、戦略の仕掛けと仕組みを学ぶ。

三、お互いに価値観を語り合うことにより 志 使命を学び合う場とする。

第5期は、トプリーパー論(帝王学)を東洋思想哲学から徹底的に学びます。

第5期予定	日程	テーマ
第1回	3月20日(月)	「荀子」人生で学ぶべきこと、リーダーシップとは？
第2回	4月24日(月)	「韓非子」人を動かす帝王学を学ぶ！
第3回	5月22日(月)	「韓非子」トップの為の組織論を学ぶ！
第4回	6月19日(月)	「忠臣蔵と山鹿兵法」武士道の志
第5回	7月24日(月)	「言志四録」佐藤一斉 人間を育成する決定的条件を学ぶ
第6回	8月28日(月)	「貞観政要」帝王学を学ぶ
第7回	9月25日(月)	「貞観政要」人間学・組織論を学ぶ
第8回	10月23日(月)	「商経」胡雪岩の商人の教え
第9回	11月20日(月)	「商経」用心観、機運観、時勢観、処世観を学ぶ！
第10回	12月18日(月)	「安岡正篤」人間学を学ぶ！
第11回	1月15日(月)	「呉子」実践兵法書 将の器を学ぶ！
最終回	2月19日(月)	「曹操孫子注釈」戦略・戦術策定の仕組みを学ぶ！

場所 : 地下鉄東陽町駅前、産業会館(会議室)

会費 : 3000円(会員2000円) 宿泊研修は別途実費(1万円予定)

5期第1回テーマ「荀子」

儒家

孔子 (前 551~ 前 479)

子曰く、性は相い近し。習い、相い遠し。

子曰く、唯だ上知と下愚とは、移らず。

孟子 (前 372~ 前 289)性善説・・・忍びざるの心 (怨)

荀子 (前 298~ 前 235)性悪説・・・人の生まれつきの性は、悪である。

善というのは、後天的、人為的なものである。

人間の本性は、生まれつき利を好むもの。

社会の安定秩序??? 善なる人格の形成??? 教化??? 性善 or 性悪

荀子の生きていた時代 (紀元前 4世紀)は、春秋の末期であり 当時は政治は腐敗しきっていた。次から次に国が滅び、暴君が生まれた。かれらは本来の道を忘れて占いに凝り、俗物儒者などが蔓延り、人々を惑わせていた。かくて、儒家、墨家、道家の実績と歩みを振り返り、系統的に纏め上げた。

荀子は孟子より60~ 70年遅れて生まれたようだ。ことごとく対照的な二人である。儒家という一つの土俵で見た場合、孟子が儒家の理想的、感情的な面を代表しているのに対して、荀子は儒家の知的、実践的な面を代表していると言えます。

人間の本性を善と見るか悪と見るか、人間の相反する側面の一方を出発点とする議論の違いは、二人の性格、生き方の違いであろう。

孟子は理想主義。荀子は現実主義だった。現実批判から知的、実践的に論理的、合理的な考えが特徴である。

性悪説は、荀子の思想の基幹をなすものである。

人はだれでも、利益を追い、快樂を求めようとする側面を持っている。現実社会が秩序を失い、人々が苦痛をかみしめているのは、この側面ばかりが成長したからだ、と主張した。

孟子のいう天性は心を意味し、善悪は道徳的な価値を意味した。

荀子のいう天性は欲望を意味し、善悪は社会秩序の治乱を意味した。

人間の天性は悪だが、後天的努力、つまり、人為を積み重ねることによって矯正できる。

天性を矯正する能力は、どんな人にも平等にある。

その能力を十分に発揮さえすれば、いかなる凡人でも聖人になれる。かれはそう考えた。

天性に外から手を加えること、それは教育である。

当然、荀子は教育を重視した。

では、努力といっても、何に向かって努力すればいいのか?

それは、礼 義の実践に努めるのだ、と荀子は言う

礼 義は人間がしたがう最高の規範であり、人を教化する手段であった。

孔子は仁を強調し、孟子は仁 義を強調した。それらは全て人間の内面に発する要素であり、天命に通じるものであった。それに対して、荀子の礼 義は外圧的な規定である。

人間の集団生活を円滑にするために外圧的な規定によって性情の赴く方向を変えようというのだ。

つまりは、礼 義の意味は、ほとんど法律に近い。

人の性は悪、その善なるは偽なり」

利益・・・自分勝手・・・争い

憎む・・・裏切り

感情・・・感覚的充足・・・社会規範(礼・義)・・・教化

意思と努力が凡人を聖人にもする」

仁・義・礼・法を理解する素質と実践する条件は誰にでもある。

可能性がるといふことは、実際にそうであることと同じではない。

勧学(学問のすすめ)

出藍の誉れ 弟子が師よりもすぐれること

青は、これを藍より取りて、しかも藍より青し。氷は、水これをなして、しかも水より寒し」

学問は途中でやめてはならない。??? 無限の可能性

どんなものでも外から手を加えれば、本来の姿を変えることができる。後天的努力の必要性。

蓬も麻中に生ずれば、扶けずして直く、白沙も泥に在らば、これとともに黒し」

いつかわたしは、一日中瞑想にふけたことがあった。ところがその結果は、ほんのしばらく学問したときにも及ばなかった。遠くを見ようとして、精一杯背伸びしたことがあるが、その結果は、高所から眺めるのに及ばなかった。君子だとて先天的に優れているわけでない。物の利用のしかたが巧みなのである。

??? 人間は環境の生き物

塵もつもって山になる」千里の道も」

目に見えぬ努力を積み重ねないものには、栄誉がおとずれるはずがないし、目につかぬところで仕事の手を抜くものでは、輝かしい成果があがるはずがない。

善行は必ずだれかが知っている」

善行につとめるからには、それを積み上げねばならぬ。積み上げてさえゆけば、必ず世に知られるはずだ。

学はその人に近づくよ、獲なるはなし」

優れた指導者につくことが肝腎である。礼や楽には規則が述べてあるだけで説明がない。詩や書には昔のことが書いてあるだけで、今日の問題性から遠い。春秋は序述が簡潔すぎて理解しにくい。

学問向上の一番の早道は、傾倒できる指導者にめぐりあうことである。次は礼を中心におくことである。傾倒できる指導者がなく、といって礼の尊重もやらぬと、結果は知識を雑説に求めるようになる。

くだらない質問には答えぬがよい。

ろくな答えができぬものには、問いかけぬがよい。

くだらない話には耳をかさぬがよい。

あげ足をとるような相手とは議論せぬがよい。

道をふんで訪れるものとだけ交際して、礼儀しらずは相手にせぬことだ。

態度が恭しい相手とだけ、求道の方法を語りあうがよい。言葉が穏やかな相手とだけ、道の道理を語り合うがよい。なごやかな表情の相手とだけ、道の極致を語り合うがよい。

相手にすべきでないものと議論するのはオシャベリである。議論すべき人とも議論しないのはダンマリである。相手の気持ちにお構いなしに語るのはヤミクモである。それらはみな正しい。

人物を見きわめて対処すること」

政治はいかにあるべきか。私の考えを述べよう

有能な人材は、序列にこだわらずどんどん抜擢する。無能な者は、さっさとクビにする。手の施しようのない悪人は、いくら教育しても無駄だから、死刑に処する。けれども一般人民は、刑罰を加える前に、教化につとめるべきだ。相手の能力が見きわめがつかぬ間は、序列を基準にしておけばよい。

??? 得手に帆をあげて(本田宗一郎)

得意分野で働け。楽しみながら働け。

農は田に精しくも以って田師となすべからず」

農家のプロといわれる人といえども、農業管理者に適しているとはいえない。

??? リーダーとは一人一人の能力を最大限に引き出し、それを少なくとも足し算、

願わくは掛け算にして当初の目的を達成する人のことだ。

平等は不平等の中にある」

「分」というものがなければ、権力は集中しない。上と下とで権力に差をつけなければ、国家は統一できない。すべてのひとが平等であっては、人が人を使うことができなくなる。天と地が分かれているように、人間には階級区分があるのが自然なのだ。

??? 人間は平等で、その努力次第でいかにようにも偉くなれる。拒否して乞食にもなれる。

使う人と使われる人がいる。しかし人格は平等に尊ぶ。

君主は舟で民は水。浮くも沈むも水次第」

君主の心得る3要点

1. 君主たるもの地位の安定を望むならば、何より政治を公平に行い、人民を愛することが大切。
2. 国家の繁栄を望むならば、礼を尊重して、すぐれた人物に敬意を払うことが大切。
3. 功名をあげようと望むならば、賢者を登用し、有能な人物に仕事をやらせることが大切。

??? 使う者は使われる者の信頼があつてこそ、その地位に留まることができる。

大事を誤らず、小事も間違えないのが、最上の君主だ。(大事は軽く、小事は重く)

小事を大切にすることは、使われる者の心をわかることが根底にある。

分はなぜ必要か」

万物はそれぞれ形成を異にする。利用価値は一様でないにしてもそれぞれが人間に役立っている。みずから信じるところがあるのは、知者も愚者も変わらない。

何を正しいと信じるかで、知者と愚者が分かれる。かりに力が等しくても、人には愚者と知者があるのだ。すべての弊害は、欲望を放任することからおこる。

分がなければ争いがおこる。

その悩みを除くには、「分」を明確にしたうえで、集団生活をいとなむほかはない。

??? リーダーの責任を覚悟できる人間こそが、リーダーの資質。責任は2~3倍。

「分」をわきまえた人間こそリーダーの資質。

君主は徳をもってし、小人は力をもってす。力は徳の役なり」

??? 人間の尊厳は志にある。

道・・・大欲・・・小欲・・・物欲(損得)・・・不安 恐怖

賞罰の効用」

褒章がなぜ効果的だったかといえば、人民に自分の努力次第で望みがかなうのだと悟らせたからだ。

刑罰がなぜ効果的だったかといえば、人民に悪事を働けば恐ろしい目にあうのだと悟らせたからだ。

すなおとへつらいの違い」

認められないのはなぜか」

仕える相手に認められないのは、自分が怠けているからだ。

怠けず一所懸命に働いているのに認められないとしたら、仕える相手を尊敬していないからだ。

尊敬しているのに認められないとしたら、成績があがらないからだ。

成績をあげているのに、それでも認められないとしたら、それは自分に徳がないからである。

徳がない人間は、せっかくの苦勞がみんな水の泡になってしまうのだ。

「一曲に覆われて、大理に闇し」

片寄った理論に支配されると、天下の公理がわからなくなる。

??? 決断力は今を知ること

最後の決断はすべて社長一人。孤独 人間の原理原則を知る。

「迷える者は路を問わず」

道理を見失っている人間は自分の意にまかせて事进行处理してしまい、賢者に相談しようとしな

「千歳を觀んと欲すれば、則ち今日をつまびらかにせよ」

「利を見て其の害を顧みざること無かれ」

??? 先見力は今日のことを知ること

情報は損と得がある。

決断力

「賞罰では人を統治できない」統率力と決断力

「聞かざるは聞くにしかず、聞くは見るにしかず、見るは知るにしかず、知るは行なうにしかず。学は行なうに至りて止む。行なわば明らかなり」

??? 学問は実践してわかってはじめて意味がある

「人事を尽くせ、天事をおかすな」

??? 人間の能力の可能性を信じ、天に頼るな